

宇部工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	世界史 B
科目基礎情報						
科目番号	0005		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	制御情報工学科		対象学年	2		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	『高等学校 改訂版 世界史A』 曽田三郎他著 (第一学習社) 副教材:『プロムナード 世界史』(浜島書店)					
担当教員	岩元 修一,野村 和代					
到達目標						
①各地域がどのような変遷をたどり、時代と共に変化する農業や商業などの人間活動が環境を含む社会にいかなる影響を与えたかを説明できる。 ②世界の多様な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について理解し、説明できる。 ③日本を含む世界の多様な文化に関する理解をもとに、時間の変化の中で互いの文化の違いからどのようにして問題が生じるか説明できる。 ④今日に至る国際的な政治・経済の仕組みや国家間の現状、その背景について説明できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安		
評価項目1	時代の流れとそれに伴う人間活動の変化が社会にどのような影響を与えたかについて、8割以上の基礎的知識をもとに理論的に説明できる。	時代の流れとそれに伴う人間活動の変化が社会にどのような影響を与えたかについて、7割台の基礎的知識をもとに説明できる。	時代の流れとそれに伴う人間活動の変化が社会にどのような影響を与えたかについて、6割台の基礎的知識をもとに説明できる。	時代の流れとそれに伴う人間活動の変化が社会にどのような影響を与えたかについて、6割の基礎的知識をもとに説明できない。		
評価項目2	世界の多様な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について理解し、8割以上の基礎的知識をもとに理論的に説明できる。	世界の多様な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について理解し、7割台の基礎的知識をもとに説明できる。	世界の多様な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について理解し、6割台の基礎的知識をもとに説明できる。	世界の多様な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について理解し、6割の基礎的知識をもとに説明できない。		
評価項目3	世界の多様な文化に関する理解をもとに、歴史の中で互いの文化の違いから問題が生じる背景について8割以上の基礎的知識をもとに論理的に説明できる。	世界の多様な文化に関する理解をもとに、歴史の中で互いの文化の違いから問題が生じる背景について7割台の基礎的知識をもとに説明できる。	世界の多様な文化に関する理解をもとに、歴史の中で互いの文化の違いから問題が生じる背景について6割台の基礎的知識をもとに説明できる。	世界の多様な文化に関する理解をもとに、歴史の中で互いの文化の違いから問題が生じる背景について6割の基礎的知識をもとに説明できない。		
評価項目4	今日に至る国際的な政治・経済の仕組みや国家間の現状、その背景について、8割以上の基礎的知識をもとに論理的に説明できる。	今日に至る国際的な政治・経済の仕組みや国家間の現状、その背景について、7割台の基礎的知識をもとに説明できる。	今日に至る国際的な政治・経済の仕組みや国家間の現状、その背景について、6割台の基礎的知識をもとに説明できる。	今日に至る国際的な政治・経済の仕組みや国家間の現状、その背景について、6割の基礎的知識をもとに説明できない。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	第2学期開講 小学校中学校の頃から歴史は覚えることが多すぎて嫌いか苦手だと思っている学生もいるかも知れないが、この授業では主に民族や国、文化や信仰などが興り、発展し、あるものは滅び、あるものは現代に至るまで存在し続けている、その歴史的な流れを人物の紹介なども含めながら進めて行くので、先入観を排除して授業に臨んで欲しい。 グローバル化が進む現代では、自分や自国の視点からだけでなく、他者や他国の立場にも理解が及ぶ幅広い視野で判断することのできる人材が求められている。また、我々は1人で生きていくことはできないし、仕事の上でも多くの人との関わりが生まれてくるだろう。全ての国には「今」を形成するそれぞれに積み重ねられた歴史や文化・思考様式がある。それらを知ることは今後、多くの人と関係を結ぶ時のヒントを与えてくれるものとなり、人生を重ね、いろいろなことを思考する上でも参考になる事項も含まれると私は考えている。学生諸君にはこの授業で、これからの人生が豊になるものになるように、或いは人との良好な関係を築く際の助けになるような「何か」を学び取って欲しいと期待する。					
授業の進め方・方法	この授業はノートやプリントに自分で書き込みながら進めていく。そうすることによって習ってすぐ要点を押さえることができ、さらに1つのテーマが終わればすぐ復習の練習問題もやっていく。適宜、小テストを行い、学習内容の定着を図っていく。授業内容としては、現在に至る歴史の最初に当たる四大文明から始め、国家・民族興亡や宗教の発生をテーマに「人」を切り口に学んでいく。					
注意点	着実に学んでいけば取りこぼすことのないレベルの出題で試験を行うので再試はしない。授業中に教員の話を中心して聞き、自分で分かりやすいノートの取り方を工夫することも必要。授業に必要なものを忘れたり、授業時に授業以外のことをしていると減点の対象になるので注意して欲しい。 提出物は平常点として評価の対象になるので、決められた期日時間に提出しないと受け付けない。この点に関しては厳しくするので、約束は守るように。 ノート・プリントに地図などを貼ってもらうこともなるので、各自はさみやのりも準備しておくとうい。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	・共和政ローマ	都市国家ローマの政治体制がどのように変化し、周辺地域との関係がどのように変わっていったか説明できる。		
		2週	・対外発展する過渡期のローマ	ローマが地中海エリアを支配するようになった過程とそれがもたらした政治上、社会面での変化について説明できる。		
		3週	・キリスト教の成立と発展	キリスト教の成立とその伝播について説明できる。		
		4週	・帝政ローマ	周辺地域との関連からローマが帝政を採るようになり、ローマ帝国滅亡につながるプロセスとキリスト教との関係を説明できる。		
		5週	・古代インド文明 (Ⅰ)	四大文明のうち、インダス文明のあり方とアール・ア人侵入以降の社会の変化を説明できる。		
		6週	・古代インド文明 (Ⅱ)	仏教の始まりと古代インド諸王朝、現代インド社会に関わるヒンドゥー教について説明できる。		

		7週	・ 隋王朝	中国を再統一した隋王朝の政策、滅亡への過程を説明できる。
		8週	・ 唐王朝（Ⅰ）	短命だった隋王朝を継いだ唐王朝の基礎を築いた太宗の統治システムを説明できる。
	2ndQ	9週	・ 唐王朝（Ⅱ）	唐王朝の中期に現れた国家衰退の兆しとそれを打破した玄宗の政策を説明できる。
		10週	・ 唐王朝（Ⅲ）	唐王朝は政治面でも文化面でも国際的な影響力を持っていたことを説明できる。
		11週	・ 唐王朝から宋王朝へ	唐王朝滅亡後の社会の大変化について説明できる。
		12週	・ 宋王朝と北方民族の発展（Ⅰ）	混乱の時代を収めた宋王朝の仕組みと北方民族の建国した国々との関係について説明できる。
		13週	・ 宋王朝と北方民族の発展（Ⅱ）	宋王朝と北方民族との関係、現代日本にも繋がる宋王朝の社会や経済について、また日本について説明できる。
		14週	・ 宋王朝と北方民族の発展（Ⅲ）	東アジアひいてはユーラシア大陸に大きな影響を与えたモンゴル民族の活動について説明できる。
		15週	・ 期末試験	第1週～第14週の内容を網羅した試験により、理解の定着を図る。
		16週	・ 試験返却 ・ 授業改善アンケート	今期に学んだ内容の再確認。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	小テスト	相互評価	態度	ポートフォリオ	宿題提出物	合計
総合評価割合	50	35	0	0	0	15	100
知識の基本的な理解	50	35	0	0	0	15	100
思考・推論・創造への適応力	0	0	0	0	0	0	0
汎用的技能	0	0	0	0	0	0	0
態度・志向性（人間力）	0	0	0	0	0	0	0
総合的な学習経験と創造的思考力	0	0	0	0	0	0	0